

---

# 夏のとある1日

白井クロ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夏のとある1日

### 【Nコード】

N5887U

### 【作者名】

白井クロ

### 【あらすじ】

夏の日常的な1日を過ごす私。

時間通りにやって来る黄色い電車によって、目的地まで運ばれる私。運ばれるため、電車に乗り込む。

今日は土曜日。これから出勤という出で立ちの人は、いつもの平日と比べて少ない。私の曜日感覚を呼び覚ます。

ビルに反射する朝焼け、夕焼けともまごう程にオレンジ色で強い光線。私の季節感覚を刺激する。

田舎から都心に進むにつれ、増えてくる乗客の数。人口の分布図を想起させる。

そして駅によって相当に変わる、電車の乗降人数。その地域の発展較差を思わせる。

向かいのおばちゃんがコンビニの袋から取り出して飲むのは、ペットボトルの緑茶。購入時の選択。私は緑茶は選択しない、緑色より茶色のお茶を好む。私と他人の趣向の違いを認識させる。

増えてくる車内人数、人口密度。人の体内に取り込まれては出て、を繰り返す水分子。今日は蒸し暑い。

そうこうしている間に、目的地の駅に電車が到着する。眩しい太陽光と汗腺がひらく外気温。暑い。

今日は夏。今日も夏。いつから夏と認識し、いつまでを夏と捉えるのだろうか、自分。

電車によって運ばれた先は、いつもと同じ都心部のある場所。人が多い。自分の地元に比べて、の話だが。

移ろう季節、留まる私。

場所を変えても、変わらない私。

他の人間と、私。違う生命个体、同じ生命種族。

しょうもない考え事を繰り返し、しょうもない1日がまた、過ぎていく。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5887u/>

---

夏のとある1日

2011年10月9日06時41分発行